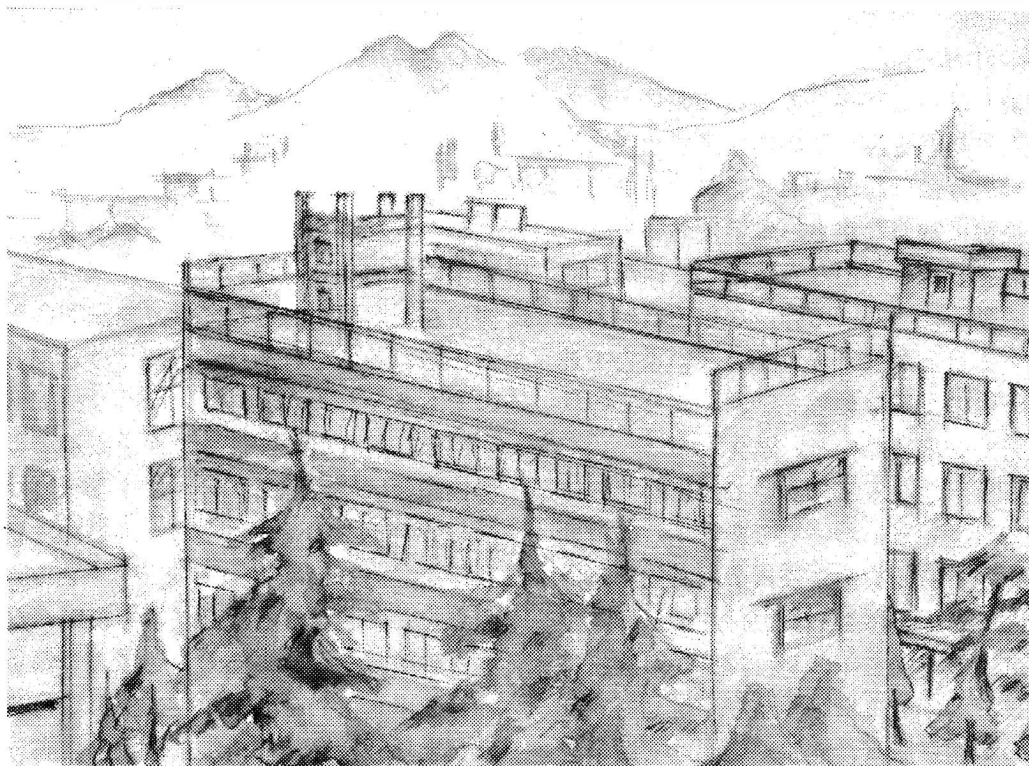


学園ニュース

富山大学
No.45

編集 学園ニュース編集委員会 発行 富山大学

昭和 59 年 6 月 20 日



学内風景（その10） 教育学部 梁瀬 朋子

目次

立看問題について	学生部長	本田 弘	2
新入学生諸君を迎う	教養部長	杉本新平	3
富山大学附属図書館に思う	附属図書館長	平田 純	4
新任教官紹介及びあいさつ			5
新入生のみなさんへ	保健管理センター所長	浅井 亨	10
スワヒリの世界から帰って	人文学部教授	和崎洋一	12
シティボーイ度診断テスト	人文学部助教授	夫馬 進	13
米国NSFと文部省科研費	教育学部助手	丸山茂徳	14
保険およびリスク・マネジメントの研究と教育	経済学部助教授	武井 勲	15
外国での出来事	理学部助教授	鳴橋直弘	16
日本留学	経済学部経営学科1年（私費留学生：韓国）	尹 大栄	17
学部・保健管理センター・附属図書館・学生部だより			18

立看問題について

学生部長 本田 弘

多くの新入生諸君、あるいは学生諸君は、「民団会議」の広報活動や抗議行動をとおして、昨年10月初旬、本学において、「民団会議」の立看板をめぐるどのような事態が発生したのかについておおよその理解をもっているかもしれない。

しかしながら、大学当局がかような事態に対して、どのような判断、見解を示しながら、「民団会議」に属する学生諸君の説得につとめているのか、また、学問の自由、大学の自治、言論、表現の自由、学生の自治活動等をどのようにして堅持しているのかについての事は、新入生諸君を含めての学生諸君一般に対してかならずしも充分には説明されていないであろう。

以下事からの経緯に触れながら、本学においては、学問の自由、言論・表現の自由などが正しく保障されて、学生の自治活動等にいわゆる弾圧などと言われるごときものに類することが加えられていないことを述べて、学生諸君一般の正確な理解と学園のよりよい秩序確立のための努力を求めたいと、思う。

ところで、立看板事件が本学において発生したのは、昨年10月2日、3日、4日においてである。この時期、「民団会議」に属する新樹寮全寮委員会は、同年10月1日からの炊事人1名国費による負担打ち切りの本学の方針に激しく抗議し、同じ年の9月12日から寮生による本部庁舎学長室前の廊下に座り込み、併せて本部庁舎屋上に朱色の新樹寮旗（後赤旗）を掲げて闘争を続けるという事態が続けられていた。また、同年10月2日富山県主催の育樹祭への皇太子夫妻の来県に、天皇制を認めないという立場から、「民団会議」は、反対する見解を表明し、「皇太子^ヲ来富弾劾」という立看板をキャンパス内の県道に面する箇所に立てたものである。

かような事態に対し、大学当局は、本学に生じている異常な事態が更に拡大され、学内問題が学外問題へと波及、拡大される可能性のありうることを憂慮し、10月1日「民団会議」に対し、立看板の撤去を求めた。しかし、「民団会議」は、この要請を認めるものではなかったため、大学当局は、自主的判断から、敢えてこの立看板を撤去するというを行ったものである。いわゆる立看板撤去事件である。

しかし、かような行為は、言論、表現の自由、学生

の自治活動に深いかかわりをもつ。それだけに、大学当局の立看板撤去という行為に誤解が生じてはならないという配慮から、柳田学長は、諸般の事情と考慮してのやむをえざる措置であった旨のことを文書により説明した。これが10・3文書と言われているものである。したがって10・3文書の全体の趣旨をすなおに理解すれば、同文書は、立看板撤去という行為そのことを契機として、本学学生の自治活動や言論、表現の自由などに一定の制限を加えようとする意図を全くもたないこと、帰する所は、大学の自治を守るという立場から、立看板を撤去せざるをえなかつたという弁明の書にすぎないということが明白になるであろう。

しかしながら、以上に見る柳田学長の判断、見解は、大学の自治を守るという意思に基づくものだとしても表現された事からとしては、憲法23条等が保障する自由に触れるおそれあり、と解しうる部分を含意するものでもあつたろう。

同年10月3日に開催された学寮補導委員会、全学補導協議会は、大学当局のかような行為が手続上問題を残している、と見られること、また、立看板撤去という行為、あるいは10・3文書は、言論、表現の自由に照らして疑義なしとは必ずしも言いえないということなどの認識から、事態の対処により慎重であってほしい等の申し入れを柳田学長に対して行った。更に別に、人文学部教授会、経済学部教授会、有志教官、あるいは教職員組合等がそれぞれの立場から柳田学長に立看板問題などについての申し入れを行ったということである。

以上のごとき各機関等からの一連の申し入れに対し柳田学長は、10月の評議会において、真意が理解されず、学内に混乱を生ぜしめたこと等に対して遺憾の意の釈明を行った。また、評議会は、全学補導協議会に対して、学生の自治活動の範囲等を明確にするため、本学の学生守則などの見直しを行うことを付託したし、別に柳田学長から、全学補導協議会に10・3文書は、学生の自治活動に効力を及ぼさないものであること、学生の自治活動に関する問題については、今後全学補導協議会で充分検討願いたい旨の意向が示された。

また、立看板撤去及び10・3文書という大学当局の一連の行為、及びこれらのことについての大学側の措

置、基本的見解は、学生の自治活動への干渉、圧殺を目的とするものではないこと、学生の自治活動が正常に遂行されることの保障が配慮されていることなどを、昨年12月3日の「民団会議」主催の全学討論集会において、学生部長が述べている。

纏めれば、立看板撤去という行為及び10・3文書は、結果としては、問題を残すことになったとしても、しかし、柳田学長自身の意図の中には、学生の自治活動の制約というようなことが全く含まれていないこと、また、以後に示された柳田学長の意向は、そのような問題、危惧を払拭するはずのものであること、更にまた、評議会、全学補導協議会、各学部、教養部教授会等がそれぞれの立場から、良識ある判断を示している限りにおいて、本学の学問の自由、大学の自治、学生の自治活動は、揺ぎなく健全な方向において保障されている、と私は見ている。

しかし、「民団会議」は、大学側の説明に納得せず、本年2月以降更に抗議行動を続ける方針を立て、4月以来見られるような抗議活動を継続しながら、今日に至っている。

立看板撤去等の事態及びそれらの事がらに起因する学生諸君の大学当局への不信感の深まりは、まことに残念なことと、私には感ぜられる。

しかしながら、上に見るごとく、本学には健全な良識が存在している。「民団会議」に属する学生諸君を含めての本学学生諸君は、一連の事態に対する大学の措置、基本的見解を冷静に認識しながら、主義、思想を超えて、大学構成員相互の基本的な人権と立場とをなによりも尊重するという自覚に立ち、節度ある平和な学園づくりにより一層努力されることをも切望するものである。

新入学生諸君を迎う

教養部長 杉 本 新 平

私は何よりもまず諸君の入学を喜び祝福いたします。諸君はいろいろの困難を克服して本学に入学されたのでありますが、どうかこの感激を忘れないようお願いいたします。私たちににとって最も用心を要するときは成功の直後であります。ヒットを飛ばしたあとにはすぐミスをしたり、難球を処理すると、とかく暴投をしたりいたします。受験にあたっての精進努力を忘れず、常に謙虚な心をもって生活を堅実にし、学業に励み、4年後にはひとり残らず卒業して頂きたいと思えます。

申すまでもなく、大学は教育と研究とを任務とする部分社会であり、学問による人間形成の場であります。そしてまた、さまざまな学問の総合を意味する一つの生きた全体であります。一言でいえば、大学とは最高の知的修練の場であって、大学にとって不可欠なものは、学生の知的情熱であります。大学は、既に決着した知識を学ぶというよりは、学問を常にまだ解決されてしまわぬ課題として取扱い、「いかに学ぶかを学ぶ」ところであります。例えば受験勉強のような問題解答の数学ではなくて、数学的思考法を学ぶのであります。これまで我々の社会は、大学に対して、すべて教育済みの、謂わば既に出来上ってしまった人として

の職能人の養成を求め、そのため大学は職業教育、技術教育の場とみられてきました。しかしこれは教育に対する大きな偏見であり謬見であります。

そもそも学校教育の内実は、完成に近くして礎定にあります。学校教育は基本的な力を与えるにとどまり、ひとは社会に於て職域に於て生きた学問をなすべきであります。日進月歩の文明社会に於て、「すぐに役立つものはすぐに役立たなくなる」という事理にも明らかかなように、技能の習得はもっぱら職域にゆづり、大学は人間性の開発、基礎学力の涵養に力を用いなければなりません。専門的知識が可なり得られても、その根柢をなす広い学問的地盤についての教養が不十分では、単なる専門家にはなりえても、独創力をもつ人材になることは出来ません。社会に有要な人材たるだけでなく、独創力に富む人材たることを、諸君の将来に期待したいのであります。そのためには、ゆとりのある学生生活が要求されます。精神の発展成長には合理主義や物量の論理では考え尽せないものがあります。そして創造性の育成には鍛錬と同時に、無駄やゆとりが大切であることは識者のよく指摘するところであります。東西の古典を学び、一見無駄に見える学問に親しむことによって、思考力が鍛錬されるのであります。

一つの学問に深入りすることは生の深みを掘り下げることであります。一つの語学を習得することは一つの世界を増すことであります。古今を通じて、人類、社会に大きな貢献をした人々は、多分に古典的教養をもっていたという事実を思うべきでありましょう。人手の養成ではなく、人間の教育に深く思いをいたすとき、一見無駄に見えるものの効用と必要性、即ち「無用の大用」を痛感せざるをえないのであります。

教養部では、実に多くの、さまざまな分野の学問の習得が課せられます。それは、大学は決して単なる職業教育、技術教育の場であってはならないからであり

ます。学生の全人的な開発育成こそ教養部の目的であります。教養部は決して単なるジュニア・コースではありません。教養の本質は人間性の（調和ある）完成、人間のもつ可能性の完成ということでありますから、大学に於ける教育は、本来、教養主義であるべきであります。

「教養」ノ 実に高貴な言葉であります。古来、教養がその価値を見出されなかったときは、片時たりともありません。どうか諸君、すばらしい知的情熱を燃やし、真実にそして深く、学生生活を生きられるよう切望いたします。

富山大学附属図書館に思う

附属図書館長 平 田 純

ごくパーソナルなことから始めることを許して貰いたい。わたしは昭和24年3月、旧制富山高等学校を卒業した。それは幾つかの高等専門学校を統合して富山大学が発足した年でもある。当時の恩師の大方が富山大学の教官となっておられたこと、また富山大学の第一回卒業生諸兄とわたしの年次が一年違っていたことから、わたしはゼロ回生と自称することにしてきている。21年高等学校に入学した時のわたし達は年令的にも17才から22・3才までと幅があったが、学力的にも高等専門学校を卒業した者から中学4年終了までと、かなり凸凹があった（ようだ）。とりわけ語学が弱かった。何しろ「敵性語」だったから英語は教科から外されていたし、労働力として動員された「学」徒は「学」とは殆んど無縁だったから。一年生の英語テキストはC. ラムの「沙翁物語」、W. アーヴィングの「スケッチ・ブック」そしてH. エリスの「新精神」だった。特に最後のものはルネサンス以降のヒューマニズムの思想を扱ったもので、内容的にも語彙的にも到底歯のたつような代物でなかった。一頁分の単語帳が四ページにもなって長大息したことはまだ記憶の片隅に残っている。その英語が週に8時間、独逸語が5時間と語学に追いまくられた日々だった。一学期の試験が終り、愕然とした思いで、改めて何とかしようとT先生に忠告を仰いだ。読み馴れることだと教えられたわたしは、すぐ図書館（室）へ行って、目録をたよりに易しそうなタイトルを探して借り出した本を、忽ち閉口して返したことを、はっきり覚えている。（それはE. スペ

ンサーの Faerie Queene だったのだ。）

その夏休みに何を借りて読んだかは全く記憶にないが、割合よく借り出したのは研究社版英文学叢書で、期限内に読み切れず、何度も借りた本もあった。先頃、書庫の棚でなつかしい本を見つけ、ふと開いたページに、某月某日と日付けが書き込んであるのを見た。わたしの親友R. H氏の筆跡と見えたのだ。今は関西の某大会社の重役室に収まっている氏と、つい先日逢うことがあって、この話を持ち出したところ、氏はその本を読んだ当時のことを、その感慨を改めて味わいながら話し出したのであった。Good Old Dayノ 過ぎにし青春の感激と精神的高揚を一冊の本が呼び戻してくれたのである。

その頃の蔵書がどれ程のものだったかは知らない。現在の附属図書館には約54万冊の蔵書があり、毎年2万5千を越える書物が増えつつある。万人によって求められることを自ら欲する「真理」と、万人によって愛されることを自ら望む「芸術」を語る古今東西の典籍が、わが図書館で繙かれ熟読されるのを待っている。

最近の傾向として、学生諸君による学術雑誌の利用が大きいのと文献複写の要求の多いことが特色だと聞いた。自分の専攻分野の先頭に立つ研究成果に関心を寄せ、最新情報を貪婪に追求する研究者としての態度に深い敬意を覚える。尊敬する碩学が「万卷の書を読もう」と決意した若き日の思い出を面はゆげに語られたのを聞いた。学ぶ者の第一の勤めは真理の探求であれば、すべからくわたし達は飽くなき好奇心と冷徹な

知性をもって、未知の領域に探りを入れてゆかねばならない。その時の羅針盤となり、海図となり、六分儀となるのが、専門書である。

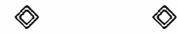
しかし、人は真理のみに生きるのではない。人は感動にも生きるのである。頭脳と知性の成長剤が知的営為としての真理の追求であるとすれば、善と美の探求は社会的人格としての人間と生の享受者としての人間を育てるものである。芸術と文学は人間の生きざま、社会の中で人と人が触れ会って生きながら織りなす人間模様を描き出して、読む人に人間的英知と生きる感動を与え、感情を哺くみ育てる。

フランスのある作家が人間の生長について語りながら、去年まで冒険小説にしか興味を示さなかった少年が夢中になって恋愛小説に読みふけている姿ほど、感動的な情景はないと言っている。異性への愛に目覚めて恋愛を描いた小説を繙き、様々の思いを投影し吸収している少年、そこにこの作家は幼年から青年への人間の成長の姿を読みとって感動しているのだ。

その意味で、わたしは知的探求はもとより、人間的成長の糧としての芸術・文学への親しみも忘れてならないことだと思う。とりわけこの年代の人たちには。専攻領域以外の分野にも目をむけることが、かえって良い成果を生み出すことがある。フランス経済学の研究に留学した折、指導教授からバルザックの小説を読むように言われて戸惑ったが、読み終えてはじめてフランス人(農民)の実際の姿が把握できて、引いてはフランス経済学が深まったという談話を讀んだこ

とがある。学問に王道はない。しかし、すべての道はわが道に通じているのだ。

読むという作業は、基本的には個人的な営みであり、読者は自分で一語一語をかなり集中して辿りながら、ページの中に展開される著者の世界を探ってゆかねばならない。そこで得られたものは読者の責任において読者のものになりうる。中断して放棄することも読者の自由なのだ。



十年後、二十年後、諸君は何をしているだろうか？それは分らない。しかし、その時、諸君は十年前の、二十年前の自分の青春を何と結びつけて思い出すのだろうか？クラブ活動か？音楽か？友人？アルバイト？……そのどれがどうだなどわたしは言わない。ただ、何事によらず、自分が全力をつくし、誠実に追求したという充実感を持たない青春など青春とは言えない、とわたしは思うのだ。

諸君、正門から入って真正面にある図書館を訪れて54万冊の中から、自分の世界を振憾させる本を見つけ出してはどうか。先人の知恵から学び取るのではないか。

パーソナルなことに終始したようだが、所詮、蟹は己れの姿に合わせて穴を掘らねばならない。ものを書く時、人は恥じらいと躊躇いと、少量の自惚と誇張なしでは済まないということの正しさを実感したことを終りに付け加えておきたい。(昭和59年5月)

◇◇ 新 任 教 官 ◇◇

- 押田雅次 助教授(教育学部) 59.4.1
昭 37.3 国学院大学文学部卒業
担当: 書道
- 阿部幸隆 助 手(理学部) 59.4.1
昭 59.3 九州大学大学院理学研究科数学専攻博士
後期課程単位取得退学
担当: 代数学及び幾何学
- 笠原一世 助 手(理学部) 59.4.1
昭 56.3 富山大学大学院理学研究科化学専攻修士
課程修了
担当: 分析化学
- 山田 茂 助 手(工学部) 59.4.1
昭 50.3 富山大学大学院工学研究科修士課程修了
(昭57.12.22工学博士)
担当: 切削加工
- 稲田篤信 講 師(教養部) 59.4.1
昭 50.3 東京都立大学大学院人文科学研究科博士
課程単位取得退学
担当: 文学

- 大藪龍介 助教授(教養部) 59.4.1
昭 45.3 九州大学大学院法学研究科博士課程単位
取得退学
担当: 政治学
- 江上繁樹 講 師(教養部) 59.4.1
昭 59.3 慶應義塾大学大学院工学研究科博士課程
修了
担当: 数学
- 小林浩一 教 授(教養部) 59.4.1
昭 20.9 東北帝国大学理学部卒業
(昭27.12.15理学博士)
担当: 物理学
- 西村芳康 講 師(教養部) 59.4.1
昭 59.3 東京大学大学院人文科学研究科修士課程
修了
担当: 英語

新任の挨拶

教育学部助教授 押田 雅次



この4月より書道担当教官として、本学に赴任いたしました。もう2ヶ月になろうというのに、まだ落ち着かぬ日々を過しております。早く一人歩きが出来るように頑張りたいと思っています。よろしくお願い申し上げます。

私は神通川の向岸に見える富山中部高校から参りましたので、距離的、時間的には大差なく、ただ橋を一つ越えただけで、何の支障もなく気楽に飛び込んで参りましたが、学内の機構というのか、この点ではかなりの相違がありとまどっております。また今までは当大学に生徒たちを送りこむために、外部から眺め、考え、私なりに進路指導をしてきましたが、今度は立場を異にしたわけでもあり、その切り変えも早くせねばと思っております。

こうした緊張した日々の中で、先日、前任校の卒業

生（本学生）諸君が研究室を訪ねてくれました。その時は昔話に花が咲き、ほんの僅かな時間でありましたが、気持がほぐれ、ゆったりした一時を持つことが出来ました。この時にどの卒業生とすることなしに出た言葉は「ここでまた先生と出会うなんて、不思議だね。先生も、そう思われませんか。」と言う言葉でした。私も「本当だね。卒業した後、また同じところで生活するなんてね。不思議だね。君たちとは特別深い因縁があるみたいだね。」と笑っておりましたが、再会した時に、お互いが素直に、心から楽しく過せることはとても美しいことであり、私自身、そのまねごどのような気分になったことを嬉しく思い、学生諸君に感謝しております。私自身この本学において、新しい体験をしようとしています。また新しい人との出会いが待っています。私に与えられたこの転機を節目に、もっと人との出会いを大切にして、これからの道に励みたいと思っておりますので、皆様方の暖かいご指導を賜われますようお願い申し上げます。

二度目の富山

理学部助手 阿部 幸隆



富山へ来てまだ1カ月余りですが、それ程異和感なく富山になじんでいると思っています。私の生まれ育った所は新潟県の山間部です。その後、東京・富山・福岡と進学のたびに移り住みました。ですから、私にとって今回は二度目の富山なのです。

ある街を旅人として訪れただけではその街を本当にわかることはできません。少なくとも四季を一通り経験してみないとわからないと思います。そして、四季を通じて住んだ土地には一種の故郷めいた愛着が生じはじめます。福岡から富山へ来る時、私には、故郷を離れるさみしさと故郷へ帰えるうれしさが同居したような複雑な感じがしました。最初に富山に来た時には不安でいっぱいでした。それまで私には、富山は縁も

ゆかりもない土地でしたから、しかし、今回は富山に着いて目に入っているものはみんなつかしく思えました。松川べりの桜、神通川、立山連峰、五福近辺のあの店この店、アオイスportsハウスの横の二本のポプラの木、みんな以前のままのたたずまいを見せていました。それから、数学教室の先生方、事務の方々も以前のままだに（多少髪に白いものが多くなった方もおられるようだが）、暖かく迎えていただきうれしく思っています。

私の数学の出発は富山大学からと言っても過言ではありません。そして、二度目の富山で大きく飛躍すべく努力したいと思っています。新潟県の山の中に育った私には、富山の自然に心安らぐ思いがいたします。この良い環境の中で研究生活がおくれることを幸せに思っています。

新任のあいさつ

理学部助手 笠原 一世



名前は、カサハラ一世と呼びます。越中五箇山の生まれで、趣味は草野球、スキーなどスポーツ一般。富山大学OBで大学院修了後、民間企業の研究所に勤務したのち、3年ぶりにまた大学へもどってきました。このたび、排水処理室を担当す

ることになりました。

現在、大学院時代をすごした同じ分析化学研究室の一室にいますが、3年ぶりにみる大学の雰囲気はずいぶん変わったように感じます。これは、学生と教官という立場の違いによることも大きいのでしょうか。

タイムカードとサイレンに始まり、これに終る会社の生活に慣れていたので、自由な雰囲気の大学では、何かとルーズになりそうで、けじめのある時間の使い

方をしなければと自戒しています。また、作業服と白衣を見なれた目には、キャンパスの学生の姿の華かさ、若々しさに驚きを感じました。

このキャンパスの華かさに比べ、排水処理室は、この数年の風雪の中で、さらに老朽の度が激しいようです。現在、排水処理室では、酸、アルカリ廃液、重金属廃液、廃有機溶媒等を処理していますが、実に種々雑多な廃液が持ち込まれてきます。さらに、設備が老朽化しているだけに、その処理にあたり、持ち込まれる廃液に何が含まれているのか、できるだけ詳しく教えていただきたいものです。皆様の御協力がなければ円滑に運営できない施設ですので、どうぞ、よろしく。

排水処理室の案内的な内容になりましたが、私自身何分にも経験も浅いので今後の仕事、研究にあたり、皆様の御指導、御鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。

技官から助手になって

工学部助手 山田 茂



生産機械工学科切削加工講座に勤務して、今年で10年目でございます。文部技官でしたが、本年度より諸先生方の御尽力により、助手にさせていただき大変感謝しています。小生のような場合も新任教官となるのだそうで、以下、技官から助手になっ

て感じた事、及び抱負を述べてみたいと思います。

今年も春の学会へ行って発表してきましたが、今度からは助手の出張旅費が使えましたので、大変ありがたく思いました。以前まではどうであったかと申しますと、技官には出張旅費がなく、研修制度もないため、講座教授の配慮により教授の出張旅費を使用させてもらっていました。他学部のことは知りませんが、工学部には学会発表等を行なっている技官の方が多く、いずれも同じような方法で出張していらっしゃるようで

あり、早く制度的に技官にも出張旅費が配分されるようになれば良いと思います。また、研修制度が認められ、自由に学会等へ行けるようになれば、実験方法や考え方等、他の研究者の生の声が聞け、実験の能率が上ると思います。

小生の属している講座は切削と研削の実験が主であり、いずれも、主に金属材料を工具もしくは砥石を用いて削っています。小生は主に非鉄系の合金である、アルミニウム合金、チタン合金、および銅合金を旋盤を使って削り、その仕上面状態、きりくず形状あるいは使用した工具の摩耗状態を調らべる実験に従事しています。一人ではとても出来ませんので、4年生諸君といっしょに行なっています。学生とは年の差が小さいので、いっしょに（良く学び）、（良く実験をし）、良く遊び、良く話し合える環境を作っていきたいと思っています。

着 任 し て

教養部講師 稲 田 篤 信



広い富山平野の平坦な道をバスに揺られて大学へ通っていると、つい2ヶ月前には家並のとぎれない坂の多い街を歩いていたのに、春に風が吹かず、どこまで行っても坂がなく、周囲が田園のこの土地にいる自分が不思議に思われてくる。四国に生

まれた私には、海は南または西にあるはずのもので、北にあることが納得がいかない。未知の、はっとする

ことの多いこの土地に来て、私は自分の脆弱な、一面的な常識や感性を鍛え直そうと思っている。

わずかな期間住んだだけでも、これまでの都会の生活がいかに目から刺激されていく欲望に満ちた世界であったかが分ってくる。商品を見て暮すことと、立山を見て暮すことがどれだけ違うことなのかが分かりかけてくる。

文学（専攻日本近世文学）を担当いたします。どうぞよろしくおねがいたします。

富 山 雑 感

教養部助教授 大 薮 龍 介



3月中旬、生まれて初めて北陸路に足を踏み入れたとき、早春の山陽路は太陽の輝く好天でしたが、琵琶湖西岸にさしかかるや、にわか上空模様が陰しくなり、吹き荒れる雪に見舞われました。程なくして雪はやみましたが、その辺からは一面の銀

世界になり、列車が進むにつれて積雪が深くなります。聞きしにまさる雪の国だ、これが、九州の福岡で生い育って東京近辺以北に旅したことのないわたしの、富山についての最初の印象でした。

赴任してまだ1カ月あまり、スカッとした快晴、青空の日は稀で、一番感じるのは、福岡との天候の相違です。外出の折には傘の携行が欠かせないことも、良く判りました。立山連峰の素晴らしい景観もたまさかにしか眺められないのは、誠に残念です。テニス気狂に近いので、富山に移り住むことが決ってから、富山はテニスができるかなあというのが最大の(?)心配事でした。懸念どおり、冬場にかかる半年間位は駄目とのことで、どうしたものかと頭を痛めています。

しかし、富山は生活を送り仕事をするのに申分のない所です。自然環境でも社会関係でも、大都会では失

われてしまった純朴さがまだ残っています。立山にも登り県内各地を一廻りすれば、ますます、居心地の良さがじんわりと伝わってくるにちがいません。ついぞ見かけたことのない花や鳥にも出くわしますし、雪国特有で色白の富山美人にめぐりあえないかとはかない期待を抱くのも悪くはありません。

そして、なによりも有難いことに、富山大学教養部の自由な雰囲気恵まれました。いささかの彷徨を経て、わたしとしては常勤の大学教官は初めての経験です。在野で理論活動に頑張っている人達にくらべると、一つの特権的地位を与えられることになりました。それだけに、この好条件に甘えることなく、教育のうえでも研究のうえでも厳しく研鑽を重ねなければならないと、ひとしお強く心に期しています。国家論を専攻していますが、政治理論史上の偉大な古典のひそみに倣えたらと、今日の時代下での国家論再構築の夢を追いかける身にとっては、どの地域にいるかは、交通、情報手段の発達もあって、ほとんど問題ではありません。この富山で、世界史の流れをしっかりと見据えながら、真理探求への情熱を絶やさずに学問的に精進したいと願っています。

良く学び、良く遊べをモットーに、富山生活を満喫したいものです。

新任にあたって

教養部講師 江上 繁 樹



富山に来てから2か月程になりますが、その間の季節の変化の激しさには驚くばかりです。また、私自身の生活も、大学院生から教官へ、自宅から下宿へと大きく変化したわけですが、意外なほどすんなりと溶けこめたのは、富山大学の良い雰囲気

のおかげであると思っております。

さて、私の専門の数学は、紙と鉛筆さえあればどこでもできる 等とよく言われますが、実際には、他の学問と同じく、最新の情報と接することが不可欠です。

その点がこちらへ来るときに、少し心配だったのですが、本学の数学科には、驚くほど完備した文献がそろっており、また、私の専攻している整数論に関しては富山・金沢周辺に数人の研究者が居られ、合同セミナーも持たれているので、まず一安心という所です。

私の尊敬するある先生が、山の見える土地で数学を勉強するのがよい、という意味のことを言われたことがあります。その点からも、剣、立山等の大自然に囲まれている富山は、非常に良い所だと言えるわけで、これから、研究に教育に、できるだけ努力をしたいと考えております。

新任 雑感

教養部教授 小林 浩 一



長い間、東京にある大学の研究所で暮して来たので、この4月に教養部の物理に来て以来、色々な意味で毎日が新鮮である。

赴任して大学の門をくぐり先ず印象づけられたのは、正門から遥かに続くクラブの新入生勧誘の看板のトンネルで、一つ一つ

近づいて見ると、それぞれに学生の思いがこめられているのが面白かった。私も学生時代に部に属していたので、40年程前の気負った当時が思い出された。これからいよいよ学生が相手の生活が始まる、という実感を強くした。学園を歩き廻って、この縦に貫ぬく中央の通りが、学園の強いアクセントであると思った。樹々が緑になる頃、看板もはずされ、車も途絶えた美しい風景を想像している。

教養部の学生を教えるのは、私にとってこれが始めてである。入学したての一年生にむかって見て、どこかに幼なさの残る真摯な目差にぶつかり、嬉しいと共に、これは大変なことだと思った。私がこれ迄接して来た大学院の学生のことを考えると、この白紙のような学生が、極めて短期間に大きく変化生長してゆくに違はなく、若年期の教育の重大さと責任を思った。

教養部には、文科、体育から理科にわたる多方面の専門家が教官としておられ、狭い物理学の分野の人間だけからなる集団で暮して来た者にとって、これが魅力である。つまり、学問のそもそもの姿或は全貌の一端を垣間見ることができないのではないか、という期待である。私の居室の近くの廊下には、地学の研究室による美しい地質図が何枚もはられていて、前を通るたびに楽しませていただいているが、この様なことの重なりで、これからの生活を送ることができれば幸だと思っている。自然科学に身をおくものとして心の隅のどこかに何時もある、分化と総合、中心と境界ということに関連して、少しでも視野が広くなればと思っている。この延長上に、文系、体育系、理系の接触ということがあろうが、建物がわかれ、互いに顔をあわせる機会が少ないのが残念である。

富山は街の大きさが適当で、主なところが歩いてゆける範囲にあるのが嬉しい。風景に身をひたしながら職場に通えるのは、大都会に住む者には味わえぬ幸福であろう。未だ乏しい経験からではあるが、県庁から松川沿いに神通川の橋に抜けるあたりが好ましい。来た早々、松川にかゝる桜の下をくぐる毎日が続いたし橋からは、時には剣を振り返りながら、まだら雪の近くの山々を背景に、雪どけ水に洗われる岸に萌え出る

春の風景を楽しんだ。これらが、これから暮す富山の四季の風物の予兆であればと思っている。

立場が変わればこれ迄見えぬ物も見えてくる、と云われるが、新しく始まる生活で、自分の学問についても、又、自分の生き方においても、何かしら新しいものを

得ることができればと願っている。富山大学に何程のお役に立てるか、非力の私にはわからぬが、精一杯に務めてみたいと思っている。皆様の御厚情をいただければ幸である。

新任のごあいさつ

教養部講師 西村 芳 康



昨年の夏、祖母が亡くなって葬式のために数年ぶりに富山に来ましたが、その時にはこちらの大学に就職することになるとは夢にも思いませんでした。ですから修士論文が終わったあと富山大学の教官募集案内を見出したときにはなにか因縁めいたものを感じました。私は東京生まれですが、両親は共に当地出身です。そのため子供の頃から何度かこちらに来たことはあるのですが、いつも短い滞在だったので地理には不案内で、授業が始まって約1ヶ月経った今もなおまごつくことが多い有様です。

自分が大学の教師になりたいと思ったのは6、7年前のことでした。当時私は2人の先生を私淑していて、

東洋大学の奥井潔先生から学生に知的好奇心をかきたてる教師像を、また東京大学の大橋健三郎先生からは外国文学に地道にかつ情熱をこめて取り組む研究者像を学びました。そしてこのたび、幸運なことに、両先生の学恩にいささかなりとも報いる機会を富山大学で得ることができました。

この4月に初めて教壇に立って、教えることの難しさを改めて知りました。学生が納得いくように教えるにはそれだけ自分自身が勉強していなければならないと思います。教師生活1年目なので自分に対する期待と不安の入り混じった毎日ですが、一日も早く学生諸君が安心して耳を傾けられるような英語教師になりたいと考えています。なにごとにも要領を得ない新米ですので、先生方々ならびに事務の皆様、宜しく御教示のほどをお願い申し上げます。

新入生のみなさんへ

保健管理センター所長 浅井 亨

入学おめでとうございます。

入学直後のオリエンテーションの時にお祝いの言葉を申し述べませんでしたので、この紙上で言わせていただきます。大学に進んで2ヶ月、ようやく本当におめでとうと言われた事実をかみしめておられることでしょうか。やっと入学できたと、こ躍りして喜んだ人も何となく入学したかと白けた気分だった人も、そろそろ大学生として自覚を始められたことでしょうか。

中学から高校にかけての6年以上にわたる長い長い気の遠くなるような受験勉強の時代を涙ぐましい努力と忍耐で過して来た人も、辛抱などとは無縁にかなり楽しく謳歌して過した人も等しく解放感を満喫するの

が夏休みまでです。冬の期間、氷の季節を通り過ぎて入学すれば、やはり春です。未来が洋々とバラ色に染っていれば勿論、たとえ不安と恐怖に戦っていても、やはり春の季節です。これからが本当の人生の始まりだからです。

大学に入学することは目的ではなく、単なる手段で人生の1つの曲り角に過ぎません。これから先の長い生涯、しかし現実には夢のように過ぎ去ってしまう一生がどのようなものになるか、ここ数年の大学での日常生活が大きく拘わってきます。身体や心の病気が毎日を暗いものとするだけでなく、その人の一生にも陰りをもたらすことが屢々あります。大学生となって受

勉強から解放された今日、やっと自分で心からやりたいと思っていた勉強に全力を打込める幸せに夢中になって机に向うのも良いことです。でも長い人生で息切れしないよう十分に気を付けてください。ほんの些細な油断から肉体が病魔に蝕まれ取り返しのつかない事態に陥ることがあります。青春の壮志が、そのために粉々にならぬよう不断から時折気をつかってください。

咳がでる、頭が痛い、膝をすりむいた、と言って保健管理センターを利用されるのは一向に構いません。しかし、風邪をひいたわけでもないのに、何となく全身が気怠い、環境が変化したせいが寝苦しく食欲がない、理由もなくいらいらする。そのような些細に思える変化に気がついたら保健管理センターへお出かけください。保健管理センターというのは診療所や病院でなく、健康管理の相談所であり、健康増進のお手伝いをする施設だからです。その点、調子の悪いときばかりでなく、より体力をつけたい、絶好調を維持したいという時にも相談にお出かけください。

また、自分のことばかりでなく、学友の調子が思わしくないと感じたならセンターに足を運ぶよう勧めたり時には代りに相談に出かけてください。

健康を維持すること、増進させることは基本的には個人の責任ですし、何をしようと、どのような状態になろうと全く個人の自由とも思えます。確かに長生きはしたくない、特に健康であろうとは思わない人がいても他人がとやかく御節介をやく必要はないでしょう。ただし、大学は集団生活の場でもありますので個人の自由に思われる疾病が他人に迷厄を及ぼすとすれば問題です。グループ研究や団体競技などで各自の勝手な行動が是認されないように大学に入学したからには大学生として注意しなければならない義務の中に健康管

理も含まれるものと信じます。大学に入学することが終局の目標でない限り、在学中にそれ相当の学問を身につける為には先ず健康であることが第一条件かと思えます。肉体と心の健康のためには体育系あるいは文化系のサークルに属して熱心に課外活動に従事するのも大変結構なことだと思います。しかし、大学はプロのゴルファーや歌手の養成機関ではありませんので、適切な範囲内で励んでください。よく、〇〇大学ボート部卒業とか山岳部卒業などと言われますが、必ずしも悪いことではないにしても身体を壊さないようにしてください。忍耐とか根性ということが人格の形成に大きく関与するのは事実ですが、一方で人間という動物は非常に個体差が大きいことも念頭においてください。突発的に思える事故も多くの場合、不注意とか配慮の足りなさが遠因となっているものです。

長い間の闘学生活に肉体的な耐久力が時として年齢相応でなくなっているのも新入生の特徴かと思われまます。教養時代はむしろ体力の養成というより回復の時期とも考えられますから、大学に入って急に一人前の大人になったと錯覚に陥って無茶や無理をしないように願います。特にコンパ等での暴飲、かっこよさに気を良くしての限度を越えた行動に注意してください。どんな若者でも人間の肉体は木の枝のようなもので、いかに弾力があると言ってもある限界を越すと撓みから急激に不可逆的な折れの状態となるものです。しかも限界には個人差があって、さらに一朝一夕では自覚できないものです。大胆かつ慎重な鍛練を積み重ねながら明日の地球を支える人になってください。一人一人の肩に各自の未来が乗りかかっているだけでなく新入生諸君の肩には人類の存亡もかかっていることを自覚して熱い大学生活を心掛けてください。



スワヒリの世界から帰って

人文学部教授 和 崎 洋 一

文部省助成による海外学術調査「スワヒリ語圏における多言語使用と『スワヒリ化』に関する比較調査」で、昨年11月から4ヶ月間、東アフリカ、タンザニア国のマンゴラ村に入り、今年3月帰って来ました。この調査は昭和55年度と58年度の2回にわたって、人文学部文化人類学研究室（和崎，赤阪）を中心に計画したもので、日本人研究者延9人，外国人（現地）研究者延5人で実施したのですが、対象地域はタンザニア国（和崎他2名），ケニア国（1名），ザイール国（赤阪他1名）にわたる、いわゆる「スワヒリ語圏」つまり部族語の上に共通語としてスワヒリ語を話している住民の居住範囲に、文化人類学，社会人類学，言語学，比較文学の関心をもって夫々分散して調査地に入り現地調査を実施しました。私は、ここで帰国のあいさつを兼ねて、文化人類学の立場から、日本ではまだなじみの浅いスワヒリ（又はスワヒリ語）についてふれておきましょう。それも、スワヒリについて私の考えの一端を述べておきましょう。

さきに記した「スワヒリ語圏」の中で、ザイールのいわゆる熱帯林に対比して、ケニア，タンザニアは乾燥熱帯のサバンナがひろがっています。私の村マンゴラはその中であって、ゆるい起伏の果しくつづくアカシアの疎開林の、所によっては半砂漠ともいえる乾ききった世界に、半年の雨期（5～10月）の天水で農耕民はトウモロコシをつくり、牧畜民は牛・ヤギを追い、狩猟採集民は草原にけものを求めています。そして夫々の部族は入り混って生活しており、皆自分の部族語を持っていると共に、お互いには共通のスワヒリ語を話しています。そして1960年代前半の独立までは、夫々の植民地宗主国の英・仏語が公用語でしたが独立後、タンザニア国はいち早くスワヒリ語を国語として教育・制度を改めてその徹底を進めて来ましたから、独立20年を迎えた現在、すくなくともタンザニアではスワヒリ語は国語であり公用語であり、部族をこえた共通語となっています。このようなスワヒリ語は印度洋から渡来したアラブ人が東アフリカのモンバサやザンジバルを起点として内陸へ象牙と香料とドレイを求めて交易を続けてゆく過程で、数世紀にわたって形成され伝播し、そして定着したもので、それは、16

～17世紀の事でした。またスワヒリ語は、東アフリカ海岸部のバンツ語系の一部族語を基礎として高度な文化をになったアラブ語を（ちょうど大和言葉に漢語をとり入れたように）とり入れて成立したものです。だから、スワヒリ語の侵入と定着は、一面では東アフリカの土着部族文化にアラブ文化を導入・土着化することでもありますから、「あの人はスワヒリだ」といえば、一方で「アラブのようなイスラム教徒である」といっている反面、宗教とは関係なく「アラブ人のように文化の高い、また、ずるい人」も意味します。私も1963年以来12回にわたる奥地のマンゴラ村の調査生活で、しばしば「お前はスワヒリだ」と言われますが、後者の意味で、しかも多分に「ずるがしい奴」とひやかされます。

スワヒリ語で「ずるがしい奴」とはムジャンジャといいます。ところがスワヒリの日常生活で民話でハイエナをだましてうまい味をしめる主役のウサギがムジャンジャの典型であると共に、一方タンザニアをイギリスの植民支配から独立に導いたニエレレ現大統領もその典型です。こんな意味で独立後発行されたタンザニア貨幣の1シリングには大統領、半シリングにはウサギが刻まれているのでしょう。だから、ムジャンジャというのは決して日本語で示したように悪い意味はないのかも知れません。しかし、一方でこども達の間で、多勢が一人の子どもを「ウサギノウサギノ」とはやしたてていじめる場面に出会います。するとこの説明に「ウサギはムジャンジャだから」という答が返って来る。つまりこのムジャンジャはやはりほめ言葉でなく「ずるがしい、悪い奴」ということになるでしょう。これは、言葉のもっている多義性とみればそれですむのですが、私にはどうやらこの言葉の中に東アフリカの乾燥サバンナに展開するスワヒリの世界のもつ不思議、つまり私と異なった価値観の世界があるように思えるのです。そしてそれは、アフリカを文明に対する未開、先進に対する後進とみて、いずれアフリカがわれわれ文明先進国の仲間入りをするという過程だ、とみるのではなく、そこに人類が行きづまっている文明から脱け出す可能性を私は信じたいという事です。たしかにアフリカは飢えています。悪疫も絶え

ません。政治的混乱も続いています。そして私もその中に計5年余りを暮して、実感として一日も早くマンガウラの隣人達がそこから脱け出す日を望んでいます。何の解決にもなりません、それが私の隣人達への礼というものでしょう。そして一方で私が体で知ったアフリカというものは、今や一面では日本が先頭をきって走っている文明の後につづくものであってはならな

いし、またそうでない可能性を「ムジャンジャ」の世界に期待しているのです。

— そして今、風薫る若葉の大学祭の、物理的なロックを耳にして、たとえこれが音楽であったとしても、踊りの輪のない音楽など、サバンナでは考えられない事だと思って空しい気持になっています。—

◇ シティボーイ度診断テスト ◇

人文学部助教授 夫馬 進

10ヶ月の中国旅行をおえて富山の研究室へ帰ると、ダンボール箱何はここにたまりにたまった雑誌や宣伝パンフレットが待っていた。一つ一つ見てゆくと、どこかの保険会社だったかの宣伝パンフレットに、《シティボーイ度診断テスト》というものがあつた。そこにはたとえば、次のような設問がある。「街を歩いたら、人だかりがしていた。さて、きみは？ 答A：何が何でも、まずのぞいてみる。答B：時間があいていたら、のぞいてみる。答C：野次馬は嫌いだから知らん顔して通りすぎる。」

野次馬派のぼくは、当然答Aを選んだ。さて、「診断」の欄を見ると、答A選択人間はシティボーイ度0で、答Cの知らん顔派がシティボーイ度最高と「診断」が出た。わが身をふりかえって大いに納得した。しかしこの時、ふと中国の人だかりを思いだしたのである。

北京でも上海でも、商店・街かど・乗り物をとわず、よく口論する二人がおり、それを観衆が二重八重にとりかこんで見ている。女性二人の口論ではじまったものが、時には御主人やフィアンセもまきこんで、プロレスのタッグマッチを思わせるシーンもあつたし、交通取締りのおまわりさんと運転手とが、新しく施行された交通法規をめぐって、多数の観衆をバックにちょうちょうはっしのやりとりをしていることもあつた。運転手はいなかから北京に出てきたところで、新しい法規を知らなかったのだが、知らなかったことを逆手にとっておまわりさんに一本打ちこんだ時など、運転手に対する声援にもいた笑いがまきおこる。見物大好き、とばかりこの場にはせ参じる人々は、さきほどの《シティボーイ度診断テスト》でゆけば、全員シティボーイ度0ということになる。数千年の文明をになう中国人が、しかも大都会に住む人々が、そろいもそろ

ってシティ的でない、というのはどういうことか。

今の中国の都市は、いなか者の集合体、つまり「偉大なるイナカ」だ、とも考えられるし、今の中国には娯楽がとぼしく、大都会にはほとんど各戸ごとに持っているというテレビも、番組にあまり変化がないからだ、との解釈もあろう。しかし、どうもそれだけではないらしい。というのは、まず、『紅樓夢』などを読んでみると、爛熟した都市文化の中で、この上なく教養人として育てられたお嬢さんがたが、日本ではとても想像できないような口論を多くの人々の目の前でやっているし、次から次へと相手を罵倒する言葉を美しい口からはきつつけているのである。もちろん相手も黙っていない。この二人のやりとりを見てみると、人をバカにしている、とか、すこしは顔を立ててくださいよ、といった言葉がでてくる。顔を立てる必要があるのは、二人をとりかこむ観客という第三者がいるからにはほかならない。

第二に、最高のエリートである中国の大学院生あたりに、座談会の席で何か学問上の問題をきいてみるとよい。おそらくきまって、一でわかることが、堂々たる十までの答で返ってくるであろう。これも、明らかに聴衆を意識してなされるシバイである。

思えば中国は、すでに十世紀のころから皇帝のみを除外すれば基本的には平等社会であつた。そこでは、生まれは必ずしもオールマイティな威力を発揮しない。長男は次男より特にえらいというわけではない。小作は地主の力がすこしでもかたむくと、バカにして年貢を納めないし、『紅樓夢』にでてくる大家のめし使いも、決して主人が主人であるということだけでは尊敬しない、いつもスキあらばつけいろうとねらっている。こんな油断のならない社会で自分を保つには、よほど

の演技力を身につけ、自己を主張しつづけ、なまの力によってではなく言葉と態度で人を心服させる必要があった。街かどの口論も、『紅樓夢』の口論も、座談会での発言も、これではないだろうか。中国の外交戦術が実に巧みなのも、おそらくこれである。野次馬は俳優がどんな身ぶりやどんなセリフをはくのか見物し二人の言い分を判定しつつ、自分の演技力をみがくの

ではないか。

こう見てくると、中国の野次馬は、高度に発達した文化の一つのあらわれであることがわかる。どうやら、日本のシティボーイが、一人でインベーダーゲームにうち興ずるのに比べ、一見やぼったい中国のA選択型人間の方が、はるかに文明的で洗練されたシティボーイであるようである。

米国NSFと文部省科研費

教育学部助手 丸山茂徳

1981年7月に渡米し、ポストドクとしてスタンフォード大学に1年4ヶ月滞在した。渡米後1年たち、2年目以降の滞米の為にNSF(National Science Foundation)に研究計画書を書き、採用されたが富山大学での事情から4ヶ月で帰国した。その後、富山大学での仕事が比較的少なくなる夏～秋にかけて、NSFの支持でスタンフォードで仕事を続けるという状態が続く。この間に私が感じた日米間の科研費システム差の功罪について述べてみたいと思う。

NSFプロポーザルと日本の文部省科研費申請書を比べると、まずその厚さの違いが目につく。それは米国では科研費の獲得が研究者の地位を脅かすものになっている為に、プロポーザルにける熱意が厚さに代っているからである。科研費の更新や新しい申請には多数の業績が必要になる。いったん、科研費-業績のサイクルが出来上がると今度はそれを途切れないうえにすることが重要になってくる。いったん途切れると、優秀な学生が自分の許に集まらなくなり、従って業績の生産が鈍り、再生の難しい悪循環に陥る。獲得した科研費の5～6割は大学が維持運営の為に吸い上げるので、大学側にしてみると科研費のとれなくなった研究者は不要になるのである。そこで、好ましからざる勸告が大学側から研究者に届く。こういった事情にある為に教授は業績生産上、最も効率のよい投資対象であるポストドクを国内外から集める傾向がある。集めら

れたポストドクは役に立たないと見なされると契約期間が過ぎると棄てられる。

日本の文部省科研費の配分方式や配分の後処理は米国と著しく異っている。ほんの一握りの論文の質的評価が厳密には非常に難しく、歴史に評価を問わねばならない側面を多分、逆手にとって科研費の配分は民主的・年功序列的に、額と回数が特定の人に偏らない様に配慮されているように私には思える。後処理についても報告書1冊以上の義務がない。その為に米国NSFにみられる緊張感が日本には優しい。こういう感想は科研費の当らない私のヒガミにも聞こえるであろうが、米国の緊張感の方が私は好ましいと思う。

日本では米国の非情な科研費事情と違って、科研費をとれないから大学を追い出されるということがない。このことは論文の質の高さを生む上で好ましいことであり、量も問わざるをえない米国にはない長所である。日本には、じっくりと時間をかけて、epoch-makingな論文を狙える精神的安定感がある。しかしこの長所は科学者の質の高さの仮定の上に成立つ議論であろう。私の様に、元来怠け者で、論文を書くのが遅い人種にとっては米国のシステムの方が合っている。恥しながら私は退路を断ち切らないと仕事ができないのである。しかし、いつかはこのような随想を書かなくてもすむ様な質の高さに近づきたいと思っている。

保険およびリスク・マネジメントの研究と教育

経済学部助教授 武井 勲

保険は社会にリスク負担のサービスを提供する重要で巨大で成長著しい一つの産業である。金融革命とニューメディアが複合して、新産業革命といわれるほどの経済環境になっている。あらゆる産業にとってリスク認識が高まっている。その中であって保険におけるプロフェッショナルな知識・技術・経験・能力・倫理をもったマンパワーの養成は緊要事である。

このような認識は保険会社で実務をしていたとき、ミネソタ大学で研究をしていたとき、そして保険における国際経営コンサルタントをしていたときを通じ今日に至るまで変わっていない。日本ではまだ保険大学というものがない。保険業界内の商売上の要請に応える訓練機関はあっても、客観的にリスク市場を分析し、リスク負担、リスク・マネジメントおよび保険のあるべき姿を探究する学問の場が日本には少ない。保険学や保険論の教授数も比較的少なく、深みのある講座はかなり少ないといわれている。数年前の保険学会の調査によれば、私の担当しているリスク・マネジメント論はわが国で当時唯一の授業科目（4単位）であるらしかった。

私なりのリスク理論研究上の必要からここ12年間には毎年世界一と言っても豪州とアフリカは知らないがーの碩学や実務家の胸を借りに歩いている。研究はライブラリー・ワークにフィールド・ワークを加味し、常に柔軟な精神で理論構築を目指すようにという恩師ウィリアムズ教授の教えを今も大切にしている。今は研究の中の調査部分は足で考える時期と観念して努力するつもりでいる。

富山大学に赴任してから保険経営のうち特にプロ代理店の研究とリスク理論、リスク・マネジメントの研究に没頭してきた。そこからプロ教育ー大学教育、社会人教育、職業人教育に関する関心が深まってきた。この関心は数年来米欧のリスク・マネジャー、保険のプロフェッショナル、それにビル管理のプロたちの協会と接触が深まったことにもよる。

かってアメリカやイギリス、ドイツなどで一流の学卒者は保険業界に参入しなかったが、事情は徐々に好転しつつある。1954年にサッド・ハンゲートは次のように述べている。「一般と専門の両方の分野で訓練された男女に対する需要は増えているが、これは高等教育機関の質量相伴った発展とかなり歩調があっている。

このように一般化していえるのは、政府、社会生活、生産、流通、交通と通信、財務、リスクおよび管理の分野での需要をみても証明できるからである」と。このような考え方を契機にニューヨークに保険大学ができ、今年の夏は新しい学舎も完成・移転の運びになったそうである。保険に限らずいくつかの産業もしくは職業を背景と目的にもつ単科大学が生まれてきた。

教育内容と視野の広狭を初めとして甲論乙駁はあったが、プロフェッショナルの最高学府としての内容は年々充実していることは疑いない。アメリカにおいて生涯教育は急速に最大の、そして最も広い支持を得た学習形態になりつつある。1962年頃すでに2,500万人もの受講者があり、その後も増えつつある。大学、コミュニティ・カレッジ、学校、組合、産業、軍隊等幾多の機関が大人にまで教育サービスの門戸を開放した。

保険やリスク・マネジメントのように目下発展途上にある学問をしていると、次のような質問が次々に生じてくる。(1) 成人教育の講師に必要な特別な知識は何か。(2) 教科の教育と指導方法は。(3) 時代の変化に合わせて新旧科目の新陳代謝はどうすればよいか。(4) 授業計画の基礎はどこにおくのがよいか。このほかほとんど無尽蔵に疑問が湧いてくる。

また特にプロを目指す人々に対してはどうか。従来の知識や実務慣習が急激に陳腐化していく中で、十分なプロフェッショナル・サービスを提供するには、新知識と新技術の習得が不可欠である。このことは職業人協会でも認識し、単に向上だけでなく、自分たちの職業を維持するためにも教育事業に力を入れる必要を理解している。そこで私は考える。

(1) プロの人々はどのようにして学習を続けるのか。(2) それはなぜか。(3) 教授や教育の提供者はプロ教育をどう設計・実施するか。(4) プロの職業人たちの教育への取り組みはどうするのか。(5) 継続教育の成果の評価方法は。(6) 個々人、教育制度および職業そのものをどのように向上させていくことができるか。

職業の分野によって研究の蓄積、学習・教育の方法も異なるであろう。しかし、それぞれに特別な教育戦略と職業組合、職業学校、大学、企業等の重要教育機関の役割、プロ教育の方法と指針などについては体系を見出す必要がある、それが可能な気がするこの頃である。

外国での出来事

理学部助教授 鳴橋直弘

エジンバラとロンドンに各々4ヶ月間、パリに1ヶ月間滞在しました。人間のやることですから世界共通のことが多いのですが、また反面日本では味わえないこともありました。ここにそこでの出来事の一部をお話ししようと思います。

1983年7月8日(金)の夕方、夜食と朝食用のベーコン、牛乳、野菜などを買って、アパートに帰ったら、鍵がかかっている入れません。というのは、私のアパートのトイレで水漏がするものですから、月曜日に電話で直してくれといった所、不動産屋が私のアパートの鍵を持っているので、お前の留守の内に直しておくということでした。火、水、木と直しに来てくれませんでした。金曜日に来たようです。ところが、私のアパートのドアには鍵穴が3つあって、その1つはつぶれていて鍵がないのですが、他に2つあり、上の方の鍵を私がもらっており、どうも下の鍵をかけて帰ったらしい。気付いてすぐに不動産屋に電話したのですが、夕方6時過ぎで、誰もいません。それで、同僚のダグラスに電話をかけ、アパートに来てもらい、不動産屋の自宅へ電話をしてもらいましたが、通じません。たぶん週末の休暇で、どこかへ行っているのだらうということでした。また、不動産屋に勤めている女事務員の電話番号を調べましたが、ありませんでした。私の部屋は4階なので、隣の窓を伝って入るという曲芸はとてもできません。ダグラスは、ドアの上の明り取り窓を破って入ったらよいというのですが、ガラスを破るとその補修が大変なので、私は近くの旅館に泊ることにしました。翌日の土曜日の朝、不動産屋を訪ねましたが、やはり誰もいませんでした。月曜日まで待つしか、しかたがありませんでした。締め出されたものですから、洗面具から下着までまったくなく、忍耐の3泊4日でした。(エジンバラでアパートを締め出された件)。

ロンドンでは、地下鉄のキューガーデン近くのベッドアンドブレイクファストに泊っていました。宿主のピーターとヒルダの長女、クリスチンは日本人と結婚していて、ちょうど第2子出産のため、長男サイモン(5才)を連れて里帰りをしていました。12月8日(木)、宿に帰ると異様な匂いがしました。壁のペンキでも塗り替えたのだらうと思っていたら、「サイモンの学校

でシラミがはやって、本日サイモンの髪を洗った」と母親のクリスチンが言う。「あなたはサイモンと良く遊ぶので、あなたも髪を洗ったらどうですか」という。もうそろそろ洗おうと思っていた頃なので、「あゝ、いいですよ」と返事をする。ただ、「今日はウォードさんの家に行くので、帰ってから洗います」と言った。9時半に帰ってくると、玄関でおやじさんのピーターに会ったら、クリスチンが待っているというのである。髪のことだろう、とすぐにわかった。2階のバスルームへ行く。クリスチンがこの薬で洗う、と言って、それで私の髪を洗ってくれました。自分で洗うのではなく、床屋で洗ってもらっているようで気分が良いのですが、その洗剤というのが、あの異様な匂いのもので、洗うといっても、あの薬を頭にすりこむだけで、水を使わないのです。「そのまゝで、ドライヤーを使わないで、本日は寝て、明日シャンプーを使って洗って下さい」。「あゝ、いいですよ」と言ってみたものの、匂いはすごいし、1~2時間で乾くだろうと思っていたが、11時半過ぎても湿ったまゝ、しかたなく枕カバーの上にバスタオルを巻き付けて渋々寝る。翌朝早速髪を洗う。「日本ではこんなことはありますか?」と聞かれる。冗談じゃない!こんな非衛生的なことがあるはずがない、というようなことは、とっさに英語では言えないで、「戦後すぐには DDT をかぶったことがあるが、最近はこの経験はありません」と言った。これはロンドンでは5~6年毎ぐらいに、学校ではやるらしい。犬や猫から移るのでは、と私は思ったが、カーペットの隅は掃除しにくくて、そこにいるのではないだろうか、と同僚の答えであった。(ロンドンで虱薬の洗礼を受けた件)。

出合い頭にソーリーよりパルドンが口から出だした頃、3月6日、いつものようにホテルから歩いて自然史博物館へ行く途中、パンテオンとリュクサンブール公園を結ぶ大通りで、変な仮装した若者の一群に出会った。9時半開店の写真屋にフィルムを買うために寄る前の時間であった。その時は少し気に留めた程度であったが、後から思うと、それがその日のお祭りの初めであった。その当時、私は標本の写真をとっては、その黒白微粒子フィルムをノートルダム寺院近くのコダック専門の写真店に持って行って現像してもらって

いた。その日も5時半頃写真屋に渡して、サンミッシェル橋の角にやってくると、警察の機動隊といっぱいの人ばかり。何があるのだろうかと覗きこむと、仮装した大勢の若者が目に映る。ある者は、ピエロに、古代の十字軍兵士に、アラビアのロレンスに、バイキングに、中世の騎士に、などなど実に面白い。数人が警察官と言いつけている。そこを離れて、数メートル歩くと、白い粉を人に振り掛けている。路上は一面うっすらと白くなっていて、どうも道行く人に、誰とはなしに粉を掛けているようだ。袋からしてメリケン粉ではないかと思われた。サンミッシェル通りを歩くと何人もの仮装した若者に会うので、粉を掛けられないように、私自身用心して歩いた。その時、左手向うから人が何かを投げた。私と投げた人との間にいた人が体

をかわした。物が私に当たった。生卵であった。私のコートは卵でびちょびちょ。すぐにポケットからハンカチを出して拭き取ったが、完全には取れない。匂いがぷんぷんする。このあたり一帯、窓など開けていようものなら、外から内へ、メリケン粉を投げ入れられ、店屋は被害を受けたと、夜同宿の日本人コックが話してくれた。何というお祭りだか知らないが、その日一日だけだった。また、やっている若者は中学・高校生のものであった。2、3日して卵の臭が消えかけた頃街を歩いていると、空からピシャと何か襟元に、見るとハトの糞。ヤラレタと思った。ロンドンで買った韓国製防寒用コートは、パリ自然史博物館標本庫のホコリで黒くなった上に、卵と糞で一段と博がついた。(パリで生卵とハトの糞を授かった件)。

日 本 留 学

経済学部経営学科1年(私費留学生:韓国)

尹 大 榮

私が日本という国に初めて足を踏み入れたのは、昭和57年6月30日であった。ソウルから小松空港までわずか1時間30分ぐらいの短い旅であったが日本海の上を飛んでいる飛行機の中でいろんな事に対して心配していた。韓国にとって日本は昔から歴史的に関係深い国であり、地理的にも一番近い国でもある。しかしながら、日本は韓国人に嫌われる国であって、むしろアメリカとかヨーロッパの国々の方がイメージ良く思われているのが現実であろう。その理由は勿論1910年代にあった歴史的な事に起因しているの言うまでもない。もし、留学とか海外旅行の計画を持っている韓国人に「あなたはどの国へ行きたいんですか」と聞くと、恐らく殆どの人々はアメリカ、あるいはヨーロッパをあげるだろう。私もそうであった。私にとって日本という国って、昔から我が国をよく苛めていた国であるとか、漢字が使われているとか、ビジネスに優れた才能を持っている国民であるとか等のごく限られた知識しか持っていなかった。当時、私は富山県費研修生として招待されて来日してたわけだが日本についての知識はあまり持っていなかったし、何よりも日本語がまるで出来ない状態だったので不安は大きかった。小松空港に着いての初印象は、あまりにも良い天気です、とにかく眩しい日だったので憶えている。まる

でハワイ辺りに来たような…。夏の太陽の光に反射している飛行機のつばさは、小さい頃から遠い所に憧れていた私のビジョン(夢)を果してくれた張本人でもあるように思われた。高校の時、夏になると南太平洋のある島国を、秋になるとシャンソンの国フランスを、そしてドイツ等を夢見していた。まさか、隣の国である日本に来ることになるとは夢にも思わなかった事であった。到着した翌日から、研修は予定通りに進んで9カ月間、コンピュータの会社であるインテックにおいてコンピュータの研修を受けた。いろんな事を経験した。コンピュータに関する一連の知識の勉強をはじめ、いろいろな階層の人々との交流、旅行、そして富大朝鮮語学科の学生たちとの韓国語会話等々…。

(それ以外にもたくさんの方があった)。特に、何よりもある程度日本語が出来るようになったことが一番よかったと思っている。だが、時間の経つのは速いもので、いつの間にか9カ月が経ち、帰国するところになったが、その時は日本という国はもう未知の国ではなかった。言葉や日本の文化・歴史・習慣・考え方等が理解できるようになるにつれて日本という国に、あるいは日本人を自分なりに理解できるようにもなった。私は韓国で大学3年生になったばかりの時、いろいろの事情によって一旦退学していたので、帰国しても大

学には戻れなかった。それで、あるコンピュータの関係の会社に勤めていたがどうも落ち着けなくて大変迷っていた。もっと勉強したい気持ちでいっぱいだったからである。ある日、もっと勉強しつづける決心を行動に移しはじめた。日本での留学を決心したわけである。しかし、日本で留学という事は、思ったよりそんなに簡単な事ではなかった。日本の国立大学での留学を希望する人が通らなければならない試験（日本語・数学・英語・世界史等）と、希望する大学の試験を受けなければならなかった。試験それ自体は勿論、言葉の問題が重なって、これは中々大変な事だった。もう一つの問題、経済的なことが一番気になって来た。幸いに試験は無事に済ませ、富大経済学部経営学科に入学出来たし、心配して来た経済的な問題も、経済学部の教官である坂口先生と、前インテックで知り合った青

山先生（奥さんと共に私には両親のような方々である）に全面的に助けられて、私の夢であった日本留学が叶ったのである。これは坂口先生と青山先生たちのおかげ様であり、ただ“ありがとうございます”という事で済ませることではないだろうがきっといつか恩返し出来る日が来るだろう。これから4年間富山にいるわけだが、非常に短期間に急成長した日本経済の秘訣を探りたいと思っている。また、この先の大学生活については、もっと自分自身の内面的な要求に充実した生活を送って行きたい。何が一番重要な事なのかを深く考えながら自分という存在を確立して行くよう努力したい。試験という事のためより、自分のためになる勉強をしたいと思っている。4年後に、“本当に良かった大学生活だった”と回想できるように頑張りたい。

学 部 だ よ り

◆ 教育学部だより

教育実践研究指導センター設備充実

教育実践研究指導センター助教授 山 西 潤 一

センターでは、58年度の設備充実として教育用ローカルネットワークシステムと個別学習用ビデオシステムを計画していたが、この程これら2つのシステムがセンターの訓練プログラム開発室に導入された。

教育用ローカルネットワークシステムは、近年急速に進展してきた教育の場でのパーソナルコンピュータの利用を考えた研究と教育を行なおうとするものである。教育の場でも、教師の問題解決を支援するための教育用データの分析、CAI教材の作成、生徒の管理、図書資料等の管理など、数えあげればきりが無い程多様な活用が考えられてきている。この傾向は今後一層増えていくものと考えられるが、このような情報化社会の中で、コンピュータによってどういうことができるのか、また、どういうことはできないのか等についての適切な判断力を養うための教育を行ない、それを

十分に活用するとともに、コンピュータを活用することによって生じる教育の諸問題等の研究や教育等、本システムの活用が大いに期待されている。現在、ソフトウェアの作成などシステムの整備を行なっているが、今年夏から学生・現場の教師等による教育情報処理のセミナーを企画している。

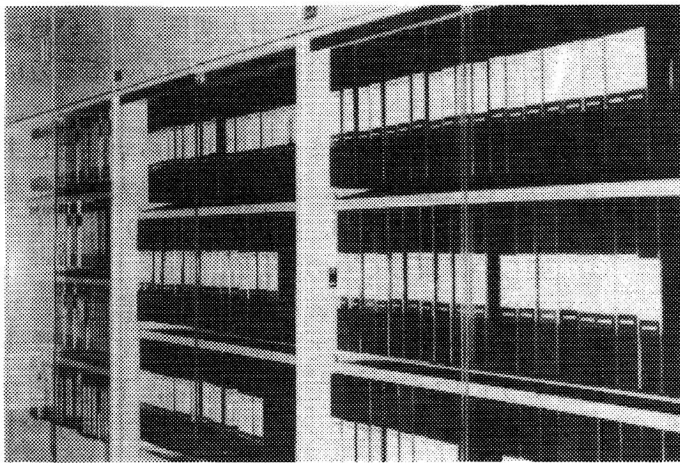
一方、個別学習用ビデオシステムは、センターでかねてより整備している教育用ビデオライブラリーをいつでも自由に個別に視聴し、学習ができるシステムである。各ブースに2人ずつ10名までが同時に学習できる。また、本システムはビデオとコンピュータとを連動させた簡易型のCAIシステムとしての利用も可能になっている。現在約200本のビデオ資料が整えられ、常時学生に利用されているが、より一層の活用を期待している。



教育用ローカルネットワークシステム



個別学習用ビデオシステム



教育用ビデオテープ

保健管理センターだより

カウンセラー 高尾 テルノ

今年の冬は長かった。5月上旬にやっと裏庭の桜が満開になったが根元には残雪があるといった例のない光景であった。

八専を待って山に行く。立山杉も随分倒れ雪の下に埋っている。大雪にも負けず真直ぐに空に向かって伸びているのを見るとホッとすると同時に「よかった！」とも思い「ようこそ雪に耐えて～」と感謝の気持ちで一杯になる。

雪解けを待って再び山に行く。数日前まで雪の下に埋れていた杉が音をたてて起きあがっている。何か躍動を感じる。一方起きあがれない杉に可哀相にと縄をかけて起すとやっと目覚め、自分の伸びるべく方向を得たかのように身震いしながら辺りを見回している。昨年起したのに、落ちこぼれのようにまた倒れている杉もある。「またか！」と内心思うが昨年の杉起し

(雪起し)の手入れの仕方が悪かったかしら「ごめんなさい」と謝り、自分を省みる。無駄な枝を切り降り、装いも新たになった杉は、自分でぐんぐんと伸びていく。木は生きている。木の育ちゆく様は、子の育ちゆくに似ている。

1年の計は 麦を植えるにあり

10年の計は 樹を植えるにあり

100年の計は 人を植えるにあり

まさにその通りで何事も一夜にして成せるものはない。

★学生相談室

来談の内容は、学業、進路、経済、生活、対人関係、精神衛生、健康、課外活動、その他様ざまであるが最近目立ってきたのは、対人関係、経済的問題そして課外活動についてである。

例・対人関係 ～ 友だちが出来ない、話題がない、恋愛など。

・経済的問題～ アルバイト、生活費、金銭の貸借など。

・課外活動 ～ リーダーとしての役割、企画、統率力、退部についてなど。

それぞれの問題について解決できるよう手助けするところがセンターなのです。どんな些細なことでも遠慮せず気軽に来所してください。お互いに話し合う中に新しい発見があって解決への糸口が見つかるのです。

専門の精神科医、カウンセラーが常時いますので、いつでも尋ねてください。

★健康相談

① 食事内容のバランスがとれていますか。

蛋白質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルなど栄養を考えた朝、昼、夜の食事内容のバランスを心がけていますか。朝と昼は軽視されがちですが、朝食こそ一日のスタートのエネルギー源として充分摂取してください。

② 運動と休息のバランスがとれていますか。

人間の身体は、使わなければ必ず不活動性萎縮がおこります。空腹や睡眠不足は感じますが、運動不足は感じないのです。運動不足によって、運動機能だけでなく、心臓や肺という生命の維持に直結する機能まで衰えてしまいます。簡単な歩く、駆けるといったことから自分に合った運動の種類と運動量を決め実行することが大切です。

③ 生活のリズムが乱れていませんか。

活動と休息(睡眠)のリズムをくずすと疲労、そして事故が多くなります。自然のリズムに従って、早寝早起きの規則正しい生活をするよう心がけ、そして常に物事に情熱をそそぎ、積極的な活動力こそ健康の維持増進につながるのです。

身体に何か不調を感じたなら、センターの内科医、精神科医、栄養士、看護婦に早目に相談し、早期発見早期治療に心がけてください。

★行事予定

① 第2回北陸地区5大学合同合宿セミナー

このセミナーは、日頃、感じていることなどを自由に話し合いながら、新しい対人関係、新しい自己を発見するためのグループ合宿です。関心のある方は是非参加してください。

期 日 日程が決まり次第お知らせいたします。

参 加 校 (富山大学、富山医科薬科大学、金沢大学、福井大学、福井医科大学)

② 楽しい健康づくりの集い

VTR、スライドを観ながら、また自由に語り合い、リズム運動などを通して「健康について大いに語り、考えよう」ということで、6月から、下記のとおり毎月第2水曜日の午後、レクセラピー室で行う予定にしています。

期日、内容については、その都度お知らせいたします。

健康づくりの集い（予定）

月日	テ ー マ	備 考
6.20	酒・煙草と健康	VTR
7. 4	夏の健康と人工呼吸	VTR, 実習
9.12	現代人の心の病気	VTR
10.24	友と何んでも語ろう会	座談会形式
11.14	精神衛生	VTR
12.12	冬の健康と血圧	VTR
1.23	リズム運動	VTR, 実技
2.13	貧血と食事	VTR, デモンストレーション

（午後1時30分より）

★その他

① 栄養士相談

原則として第4水曜日に実施しています。ただし、それ以外の日でも、日常の食事、栄養のバランス、または身体不調時の食事などについて気軽に相談にしてください。

② 学校医の来所日

毎週、火、木、金曜日の午後、学校医が来所されます。診療・健康相談等にご利用ください。

③ 学生健康保険に関する相談・お問い合わせにはいつでも応じます。

附属図書館だより

附属図書館の電算化に伴う夏期休館について

期 間 昭和59年7月2日～8月31日

教職員

・休館期間中も午前中（9:00～12:00）は通常業務を行う。

（イ. 閉架図書（書庫内図書） ・雑誌貸出）
（ロ. 文献複写業務）

学 生

・開架図書（学生参考図書）について

1. 6月19日までに貸出中の図書は全て返却を求める。
2. 6月20日～6月30日まで館内閲覧はできるが貸

出しは行わない。

3. 7月2日～8月31日まで閲覧・貸出業務は行わない。

・閉架図書（書庫内図書）について

1. 夏季休業中の長期貸出（9月8日返却期限のもの）は3冊以内とし、6月20日～6月30日の間に行う。

2. 休館期間中も午前中（9:00～12:00）は、1階新聞コーナー、2階自由閲覧室は利用できる。

※工学部分館は、移転計画に併せて休館する。

学生部だより

◇ 来春卒業予定の皆さんへ

皆さんは、卒業後の進路について、いろいろ検討されていることと思いますが、すでに御承知のように、就職のための選考開始時期等については、大学・高等専門学校関係11団体と中央雇用対策協議会の双方において、次のような内容の申し合わせが行われております。

① 求人（求職）のための企業と学生の接触開始は卒業前年の10月1日。

学生部長 本 田 弘

② 選考開始は卒業前年の11月1日。

これらの申し合わせは、学校教育を適正に実施し、学生の就職の機会均等・公平性を確保すると云う観点から定められたものです。

皆さんも、この趣旨を十分に理解されて就職協定遵守のため御協力をお願いします。

◇ 第36回北陸地区国立大学体育大会は、北陸地区国立大学体育連盟及び富山医科薬科大学の主催で7月8日(日)を中心に別記会場で開催されます。

競 技 日 程

種 目	期 日	開 始 時 間	競 技 会 場	出 場 選 手 数	競 技 方 法 及 び 小 種 目
陸上競技	男・女 7月8日	10:00	富山県営 陸上競技場	(1) 1種目2名以内(リレーを除く。)ただし、1名のオープン参加を認める。 (2) 1名の出場種目は3種目以内とする。(リレーを除く。)	男子(トラック) 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 5000m, 110mH, 400mH, 3000mSC, 400mR, 1600mR, (フィールド) 走巾跳, 三段跳, 走高跳, 棒高跳, 円盤投, 砲丸投, 槍投, ハンマー投 女子(トラック) 100m, 200m, 400m, 800m, 100mH, 400mR (フィールド) 走巾跳, 走高跳, 円盤投, 砲丸投, 槍投
野 球	男 7月8日 (雨天の場合9日まで順延)	9:00	富山県営野球場	25名以内	リーグ戦
庭 球	男・女 6月上旬日曜日, 7月6日, 7日, 8日 (雨天の場合9日まで順延)	9:00	福井大学 テニスコート 富山大学 テニスコート 富山医科薬科大学 テニスコート	男子15名以内 女子 7名以内	団 (体ナメント戦) 男子 4複7単 (サク戦) 女子 2複3単 ※福井大学×福井医科大学の試合は6月上旬に権大学コートで行う。
軟式庭球	〃 7月8日 (雨天の場合9日まで順延)	9:00	富山県営 軟 庭 球 場 富山市営 馬場一ト	男子 30名以内 女子 20名以内	団体(点取りリーグ) 男 5チーム 9セット 女子 3チーム 9セット 個人(トーナメント) 男子 15チーム以内 9セット 女子10チーム以内 9セット
卓 球	〃 7月8日	開会式 終了後	富山医科薬科大学 体 育 館	男子 20名以内 女子 12名以内	団体(リーグ戦) 男子 4複7単 女 子 2複5単 個人トーナメント(シングルのみ) 男子 20名以内 女 子12名以内
バドミントン	〃 7月6日, 7日, 8日	6日 13:00 7・8日 7:00 9:00	高岡市民体育館	男子 16名以内 女子10名以内	団体(点取りリーグ) 男子 3複4単 女 子 2複単 個人(トーナメント) シングルス 男子 12名以内 女 子 10名以内 ダブルス 男子 6組 以内 女 子 5組 以内
バレーボール	〃 7月8日	10:00	小杉町民体育館	男・女共20名以内	トーナメント戦 3位決定戦 3セット
サッカー	男 6月24日 7月1日 7月7日	11:00	富山医科薬科大学 陸上 競 場 (組み 合 へ によ り変更)	20名以内	トーナメント戦
ラグビー フットボール	〃 6月24日 7月1日	12:30 14:00	富山県 営 岩 瀬 ランド	25名以内	トーナメント戦 3位決定戦(35-5-35)
剣 道	男・女 7月1日	9:00	富山県武道館	男子 25名以内 女子 12名以内	団体(点取りリーグ) 男子13名以内(登録は15名以内) 女子5名以内(登録は7名以内) 個人(トーナメント) 男子10名以内 女子 5名以内
柔 道	男 7月1日	10:00	富山県武道館	17名以内	団体(点取りトーナメント) 3位決定戦 個人(トーナメント) 4名以内
バスケット ボ ー ル	男・女 7月8日	10:00	富山市民体育館	男・女共 20名以内	トーナメント戦 3位決定戦

種 目	期 日	開 始 時 間	競 技 会 場	出 場 選 手 数	競 技 方 法 及 び 小 種 目
水 泳	7月1日	10:00	富山市民プール	(1) 1種目3名以内 20 1人の出場種目は3種目以内(除くりレー)	男子 自由形 100m, 200m, 400m, 800m 背 泳 100m, 200m 平 泳 100m, 200m バタフライ 100m, 200m メドレーリレー400m リレー 200m, 800m 個人メドレー 200m 女子 自由形 100m, 200m, 400m 背 泳 100m, 200m 平 泳 100m, 200m バタフライ 50m, 100m メドレーリレー400m リレー 200m, 400m 個人メドレー 200m
ヨ ッ ト	7月7日 8日	9:00	水見市阿尾湾	20名以内	総合と種目別(スナイプ, 470級)スナイプ級 2艇制 470級 2艇制
準硬式野球	7月7日 8日(雨天場合 9日に順延)	7日 13:00 8日 10:00	富山医科大学 野 球 場	25名以内	トーナメント戦 3位決定戦
ハンドボール	7月8日	10:00	富山大学 第一体育館	15名以内	トーナメント戦 3位決定戦
空 手 道	7月8日	10:00	富山医科大学 武 道 館	20名以内	団体 自由組手5組)リーグ戦 各試合2分 3本勝負 個人自由組手 各校4名以内2分3本勝負 (分けの時2分 最後判定)トーナメント
弓 道	7月8日	9:00	富山県営弓道場	男子 14名以内 女子 6名以内	団体 男子8名(1人20射計160射) 女子4名(1人20射計80射) 四ツ矢5回個人 団体戦出場者および男女8名 (20射中的中数の多い者)
体 操	7月8日	10:00	富山中部高校 体 育 館	男子 20名以内 女子 10名以内	男子 運動・鞍馬・平行棒・吊輪・跳馬・鉄 棒 女子 床運動・段違平行棒・平均台・跳馬
自 動 車	7月8日	7:00	呉羽自動車学校	団体 各種目2名 個人 各種目出場者2名以内	フィギュアレース (1) 軽四輪(550cc以下) (2) 型トラック(ナンバーキャブオーバータイプ) (3) 型乗 車 (4) 選乗用車
創作舞踊	7月7日	14:00	富山大学 第二体育館二階		公開演技
少林寺拳法	7月7日	13:00	富山大学 第一体育館		公開演武 (団体演武, 組演武, 個人乱捕リーグ戦)
合 気 道	7月7日	13:00	富山大学武道館		公開演武, 組演武
アメリカン フットボール	7月1日	13:00	福井大学 グラウンド		金沢大学と福井大学のエキジビジョン



◇ 昭和59年度富山大学都道府県別入学者数調

昭和59年5月1日現在

	人 文	教 育	経 済	理	工	計 (%)
北 海 道	3		2	2	1	8 (0.7)
青 森						
岩 手	1		1			2 (0.2)
宮 城				1		1 (0.1)
秋 田						
山 形	3		1			4 (0.3)
福 島				1		1 (0.1)
茨 城					1	1 (0.1)
栃 木			2	1		3 (0.2)
群 馬	1		1	2		4 (0.3)
埼 玉			1	1		2 (0.2)
千 葉	1			2	1	4 (0.3)
東 京	3		1	1	2	7 (0.6)
神 奈 川		1		1	4	6 (0.5)
新 潟	3		2	13	3	21 (1.8)
富 山	87	186	172	65	156	666 (55.7)
石 川	43	41	37	24	52	197 (16.5)
福 井	4	6	12	5	1	28 (2.3)
山 梨			2	2	1	5 (0.4)
長 野	3		1	6	3	13 (1.1)
岐 阜	5	2	12	7	18	44 (3.7)
静 岡		1	5	4		10 (0.8)
愛 知	7	2	30	16	42	97 (8.1)
三 重				4	4	8 (0.7)
滋 賀	2	1	2		3	8 (0.7)
京 都	1			1	1	3 (0.2)
大 阪	1		5	6	6	18 (1.5)
兵 庫			2	9	4	15 (1.2)
奈 良	1				1	2 (0.2)
和 歌 山				1		1 (0.1)
鳥 取			1	1		2 (0.2)
島 根	1		1			2 (0.2)
岡 山			1	1	1	3 (0.2)
広 島			2	2		4 (0.3)
山 口			2	1		3 (0.2)
徳 島			1			1 (0.1)
香 川						
愛 媛						
高 知						
福 岡						
佐 賀						
長 崎						
熊 本			1			1 (0.1)
大 分						
宮 崎				1		1 (0.1)
鹿 児 島						
沖 縄						
計	170	240	300	181	305	1,196 (100.0)

◇ 昭和 58 年度卒業生進路（就職）状況

昭和 59 年 5 月 1 日現在

学部	項目 学科課程 性別	卒業者数		就職希望者数		就職不希望者数		就職者数		未就職者数		就職率 (%)	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人文学部	人文学科	32	37	22	29	10	8	20	23	2	6	90.9	79.3
	語学文学科	25	53	17	45	8	8	16	38	1	7	94.1	84.4
	計	57	90	39	74	18	16	36	61	3	13	92.3	82.4
教育学部	小学校教員養成課程	30	101	29	97	1	4	26	66	3	31	89.7	68
	中学校教員養成課程	21	23	21	21	0	2	20	15	1	6	95.2	71.4
	養護学校教員養成課程	0	18	0	17	0	1	0	16	0	1	0	94.1
	幼稚園教員養成課程	0	34	0	32	0	2	0	26	0	6	0	81.3
	計	51	176	50	167	1	9	46	123	4	44	92.0	73.7
経済学部	経済学科	104	7	99	7	5	0	99	7	0	0	100	100
	経営学科	113	19	106	17	7	2	106	15	0	2	100	88.2
	経営法学科	45	5	43	4	2	1	43	4	0	0	100	100
	計	262	31	248	28	14	3	248	26	0	2	100	92.9
理学部	数学科	31	9	29	7	2	2	26	7	3	0	89.7	100
	物理学科	32	3	22	3	10	0	19	3	3	0	86.4	100
	化学科	23	15	19	13	4	2	17	11	2	2	89.5	84.6
	生物学科	14	10	10	5	4	5	8	3	2	2	80.0	60
	地球科学科	20	4	18	4	2	0	16	2	2	2	88.9	50
	計	120	41	98	32	22	9	86	26	12	6	87.8	81.3
工学部	電気工学科	42	0	36	0	6	0	36	0	0	0	100	0
	工業化学科	29	5	19	4	10	1	19	4	0	0	100	100
	金属工学科	38	0	30	0	8	0	30	0	0	0	100	0
	機械工学科	47	0	44	0	3	0	44	0	0	0	100	0
	生産機械工学科	33	0	28	0	5	0	28	0	0	0	100	0
	化学工学科	23	1	18	1	5	0	18	1	0	0	100	100
	電子工学科	35	2	29	1	6	1	29	1	0	0	100	100
	計	247	8	204	6	43	2	204	6	0	0	100	100
合計	737	346	639	307	98	39	620	242	19	65	97.0	78.8	

◇ 昭和 58 年度卒業生産業別就職状況

昭和 59 年 5 月 1 日現在

学部		人文学部	教育学部	経済学部	理学部	工学部	合計	学部		人文学部	教育学部	経済学部	理学部	工学部	合計
産業別	学部						産業別	学部							
	農業							不動産業							
林業							運輸・倉庫業				5			4	9
漁業・水産養殖業							電気・ガス・水道				2			7	9
鉱業							マスコミ	新聞・出版	2		1				3
建設業	3		4	2	4	13		ラジオ・テレビ	2						2
								小計	4		1				5
製造業	食品			10	1	4	15	サービス	広告・観光業	2					2
	繊維			4	1	3	8		医療保健業			2			2
	印刷	6		2		2	10		非営利的団体	1	3		1	1	6
	化学工業	3	1	7	18	13	42		公共企業体等						
	石油・石炭製品								小計	3	3	2	1	1	10
	鉄鋼					2	2	公務	教育	17	149	1	19	1	187
	非鉄金属				2	9	11		国家公務員	1	3	8	4		16
	金属製品		2	5	2	10	19		地方公務員	5	1	25		6	37
	一般機械器具	1		8	5	24	38		小計	6	4	33	4	6	53
	電気機械器具		1	14	19	59	93		上記以外のもの	26	7	81	28	14	156
	輸送用機械器具	3		7		20	30		合計	97	169	274	112	210	862
	精密機械器具					4	4		規模別就職先	大企業(従業員数300人以上)	42	1	178	48	165
その他	1	1	9	2	13	26	中企業(従業員数30~299人)	24		8	56	32	34	154	
小計	14	5	66	50	163	298	小企業(従業員数29人以下)	4		4	6	5	4	23	
卸小売	商事・貿易	3	1	12	2	6	24	企業以外		27	156	34	27	7	251
	百貨店・スーパー	14		6	3	4	27								
金融保険	小計	17	1	18	5	10	51								
	銀行	2		18	2		22								
	信用金庫・信用組合	1		17			18								
	保険業			10			10								
	証券・商品取引	4		16	1		21								
小計	7		61	3		71									

◇ 訂正 (おわび)

○ 第44号 (昭和59年3月21日)

- ・ 18ページ 右欄上から19行目「SIN」を「SIN-」に及び、20行目「OBRIGAPA」を「OBRIGADA」に、訂正します。
- ・ 19ページ 右欄上から6行目「ATE」を「ATÉ」に及び、7行目「ABRA&O/」を「ABRA&O/」に、訂正します。

—— 学園ニュース編集委員 ——

学生部長
人文学部
教育学部
経済学部

本山 田口 弘
服部 幸 祐
佐々木 良 久
山本 都 浩
正中 本 芳 久
藤 亀 康 造
藤 康 俊

理学部
工学部
教養部

松本 賢 一
岡本 公 夫
本々 静 益
安本 和 孝
山 高 子